

平成 21 年 12 月 18 日

各 位

日本農産工業株式会社

## 平成 22 年 1～3 月期の畜産配合飼料価格について

### 畜産配合飼料価格改定額

弊社は、平成 22 年 1～3 月期の畜産配合飼料価格につきまして、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 21 年 10～12 月期に比較して、全国全畜種総平均トン当たり約 400 円値下げすることを決定致しました。尚、改定額は、地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

### 飼料原料・外国為替情勢について

#### 1. 原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし 3 月限は  $\phi$  380～420/ブッシェルの範囲にあり、10～12 月期と比較して大幅に価格水準を上げています。

米中西部の秋口以降の長雨による穀物の収穫遅れが収穫減少懸念に繋がり、投機筋の買いに繋がっています。また、インフレ期待から株式・商品相場等への投資も拡大されており、穀物相場は下がり難い状況です。

#### 2. 副原料（植物蛋白原料）

アルゼンチン産大豆の減産により中国が米国産大豆を主体に購入しているため、シカゴ定期大豆期近限月相場は  $\phi$  1,000/ブッシェル水準を維持しており、シカゴ定期大豆粕相場期近限月は \$ 320/ショートトン前後の高値推移になっています。

インド産大豆粕の予想以上の高値や船運賃の上昇等を円高が打ち消す格好となり、1～3 月期間渡し条件の国内大豆粕価格は 10～12 月比較では若干安くなる見込みです。

#### 3. 海上運賃

中国の旺盛な鉄鉱石・石炭の輸入を背景に、米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃価格は \$65～75/トンの範囲に上昇しています。

#### 4. 外国為替

ドル円相場はドバイ危機等から 14 年振りの 84 円台を付けましたが、日本政府の金融緩和政策などからドルが買い戻されています。現在、ドル円相場は 88～90 円の範囲の動きとなっています。